

営農だより

今年はカメムシ類が
過去20年間で最多!!
集落一斉防除で
カメムシ撲滅!!



7・8月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～

- 中干し後から出穂までの約1ヶ月の飽水管理
- 出穂から刈取り直前までの1ヶ月以上は
 - ① 土壌を乾かさない
 - ② 水をずっと溜めない
 - ③ 水をすぐ落とさない

令和3年度カメムシ類生息調査結果

2021/7/1 9:30～ 天気 晴れ

調査点数	すくい取り調査 (20回×3回)							1地点平均
	トゲシラホシカメムシ	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	アカスジカスミカメ	その他カメムシ	合計	
101	88	42	45	362	832	26	1,395	14

● 7月1日のカメムシ調査では、1地点平均14匹となり、過去20年間で最も多い結果となりました。種類別ではクモヘリカメムシで過去平均の3.1倍、アカスジカスミカメで過去平均の2.3倍と特に多く捕獲されました。

【基幹防除】

薬剤名	10a当たり散布量	品 種 名	散 布 適 期	適用病害虫名	備 考
ノンプラス トレバリダ粉剤DL	4kg	ゆめみづほ	出穂後 7～10日	いもち病・紋枯病 ツマグロ・ウンカ類 カメムシ類	収穫21日前まで
		コシヒカリ	出穂前 5日		
		ひやくまん穀	出穂前 2日		
ビームスタークル 粉剤5DL	4kg	コシヒカリ	出穂後 7～10日	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	収穫7日前まで
		ひやくまん穀	出穂後 7～10日		
ダントツ粉剤DL	4kg	ゆめみづほ	出穂後 14～17日	ウンカ類 カメムシ類 イナゴ類	収穫7日前まで
		コシヒカリ	出穂後 14～17日		
		ひやくまん穀	出穂後 14～17日		

● 散布にあたっては、朝・夕等無風時に実施し、周辺圃場へ飛散させない。

【カメムシによる斑点米の防止対策】

基幹防除を集落一斉に実施し、いもち、カメムシの被害を防いで下さい。
カメムシ対策として出穂後2回の防除を徹底しましょう。

《基幹防除体系》

	7月			8月		
	中旬	下旬		上旬	中旬	下旬
防除の徹底	カメムシ侵入 警戒期間			カメムシ防除 徹底期間		
ゆめみづほ	出穂期 7/18 ～ 7/20	1回目防除 出穂後 7～10日 (7/25～7/30) ノンプラストレバリダ 粉剤DL	2回目防除 出穂後 14～17日 (8/1～8/6) ダントツ粉剤DL			
コシヒカリ	1回目防除 出穂前 5日 (7/23～7/25) ノンプラストレバリダ 粉剤DL	出穂期 7/28 ～ 7/30	2回目防除 出穂後 7～10日 (8/4～8/9) ビームスタークル 粉剤5DL	3回目防除 出穂後 14～17日 (8/11～8/16) ダントツ粉剤DL		
ひやくまん穀			1回目防除 出穂前 2日 (8/2～8/6) ノンプラストレバリダ 粉剤DL	出穂期 8/4 ～ 8/8	2回目防除 出穂後 7～10日 (8/11～8/18) ビームスタークル 粉剤	3回目防除 出穂後 14～17日 (8/18～8/25) ダントツ粉剤DL
無人ヘリ防除	1回目防除 7/22～7/28 [〒] ビームイトレボンゾル + モンセレンフロアブル		2回目防除 7/31～8/7 [〒] ビームイト スタークルゾル	3回目防除 8/8～8/14 [〒] スタークル液剤10	追加防除 8/17 [〒] スタークル液剤10	

農薬の散布にあたっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守して下さい。

カメムシ対策は「基幹防除の徹底から」

■生育概況 (コシヒカリ)

現在では6月28日頃に最高分けつ期を終え、莖数は減少へ向かっています。
幼穂形成期 (出穂前15日~26日) に入ったので中干しを終了し、飽水管理を徹底してください。

【生育調査結果】

	7月8日現在	前年度
草丈 (cm)	70.3	73.2
莖数 (本/株)	23.4	21.1

※市内21箇所の観測田データの平均値

土づくりは農業の基本!土を育てよう!

JA加賀の土づくり資材の散布率は年々増加傾向にありますが、
他JAと比較すると散布率は著しく低い傾向にあります。

水稻土づくり資材散布実績

地区	散布率 (%)		
	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
加賀	14.6%	16.9%	18.7%
小松	42.1%	46.6%	46.2%
根上	9.0%	18.9%	23.1%
能美	62.1%	62.8%	65.3%
白山	25.8%	32.9%	39.2%
松任	39.9%	43.8%	46.1%

データ提供: JA全農いしかわ

近年、気象変動が激しくなっている中、水稻生産者の皆様から「収量が毎年安定して獲れない」といった声や、
地力の低下などから「昔より収量が落ちてきた」等の声をお聞きするようになりました。
一方、米価下落の中、土づくり散布率が低下しているのも事実です。

しかし

土づくり資材の投入をやめることで短期的な経費削減には繋がりますが、
長期的には土地生産力の低下を招き、農業経営における最大の資本としての
圃場の生産価値そのものが、容易に取り戻せない形で失われていきます。
春先の低温や登熟期の高温に負けない稲づくりのために**土づくり**が必要です!!

JA加賀 土づくり資材 オススメ商品



BB加賀土元気

加賀市の土壌で不足している
リン酸・ケイ酸を配合した
JA加賀オリジナル肥料!



ようりん

リン酸は、く溶性で
流亡・流脱が少なく、
肥効の持続が高い肥料!



BBかがやき土アップ

ケイ酸を多く配合した
JA加賀オリジナル肥料!
低コスト肥料!



BBひゃくまん馬力

吸収利用率の高いケイ酸原料を
使用!丈夫な稲体づくりに必要
な微量元素もバランス良く配合
された低コスト肥料です!